

世界道路交通犠牲者の日・北海道フォーラム

交通死傷ゼロへの提言

WORLD DAY OF REMEMBRANCE FOR ROAD TRAFFIC VICTIMS



ポルトガルにおけるキャンドル点火の様子
© Pedro Costa/Lusa

11月20日(日)

13:15 ~ 15:45

かでの2・7 820研修室

札幌市中央区北2西7

入場無料



国連が提唱した「世界道路交通犠牲者の日」(11月第3日曜日)に連帯し、毎年世界で120万人の死者という道路交通被害者を追悼するとともに、悲劇を繰り返さず、被害ゼロを実現するため、スピードと効率優先のクルマ社会を問い直します。

ゼロへの提言 基調講演

歩行者と自転車の道の革命

～車道至上主義から道路交通文化の時代へ～

講師 津田 美知子氏

「欧州の市街地では、不思議なほどクルマの危険を感じない。第1に、1960年代から、生活の場の道路にはことごとく速度抑制の措置を施し、子どもが安心して歩ける道づくりに取り組んできたこと、第2に、主に90年代から、幹線道路には自転車道を整備し、歩道：自転車道：車道を対等な配分にしてきたこと。この2段階の目に見える形の道路整備を進めながら、歩行者を最優先とする道路交通文化を成熟させてきたからであろう」(つだ みちこ)

ゼロへの願い 被害者からのメッセージ

怪我をされた方からの訴え…「自転車乗車中に車にはねられ、20年も痛みとたたかっています。正当な治療と後遺障害認定のシステム確立を強く望みます。…」

ゼロへの誓い 関係機関や団体からの報告

後援：北海道・北海道警察・札幌市

協力：クルマ社会を問い直す会・交通権学会北海道部会・道はだれのもの？札幌21・スローライフ交通教育の会

主催：北海道交通事故被害者の会

(札幌市中央区北1条西9丁目 ノースキャピタルビル4階 Tel.011-233-5130)

〈講師プロフィール〉

福井大学工学部建築学科卒業、大阪市立大学大学院生活科学研究科(生活環境学専攻)後期博士課程単位取得満期退学、学術博士。社団法人地域問題研究所を経て、生活環境デザイン室主宰。公共空間アナリスト。著書：「歩行者と自転車の道の革命～車道至上主義から道路交通文化の時代へ」(http://web.me.com/publicspace/hokosha_jitenshaに公開)、ほかに「歩行者の道1 マイナスのデザイン」、「歩行者の道2 通行帯のデザイン」(技報堂出版2002年)など。

「世界道路交通犠牲者の日」とは

1993年にイギリスのNGO「ロードピース」が始めた「道路交通犠牲者の日」というイベントがヨーロッパを中心に広がり、2005年の国連総会で、毎年11月の第3日曜日を「世界道路交通犠牲者の日」(WORLD DAY OF REMEMBRANCE FOR ROAD TRAFFIC VICTIMS)とすることが決議されました。

日本では2007年に京都の遺族今井博之さんがWHOの「指針」を邦訳し呼びかけ、翌年から東京や大阪そして北海道など全国でシンポジウムや追悼行事が行われるようになりました。

北海道では、「交通死傷ゼロ」をテーマに、2009年は「まちと命を守る、『脱スピード社会』を」(小栗幸夫氏、写真右)、2010年は「クルマ社会と子どもたち」(今井博之氏、写真左)と題した提言を受け、速度の抑制と制御の課題、ゼロ目標を明確にしたシステムアプローチなどについて討議しました。

(昨年届いたメッセージ抜粋と採択されたアピール抜粋は↓)



ヨーロッパに学ぶ道路交通文化

「コペンハーゲンやアムステルダム在市街地における幹線道路は片側1車線が普通であり、歩道、自転車道、車道が1対1対1の対等な関係にある」(津田美知子著「歩行者と自転車の道の革命」より)



コペンハーゲン



オランダ発祥のボンエルフ(生活の庭)の標識、この区画では、「優先権を自動車に与えない」「道路で遊ぶことを禁止しない」「歩道に駐車させない」「高速で走れない(30km/h以下)」が基本理念とされる。

(昨年の今井講演より、コペンハーゲンの写真も)

私たちが1993年にヨーロッパではじめて世界道路交通犠牲者の日の集まりがことしも日本で開かれることをうれしく思います。

「世界の追悼から世界の行動へ」、これが「行動の10年」に向けて私たちが選んだワールドティのメインテーマです。この言葉に込められ想いととも手を取りあつて進みましょう。

Nov.2010 Brigitte Chaudhry MBE
(ブリジット・ショードリー RoadPeace 創設者兼会長)

本来人の「道具」(機械)であるべきクルマの使用により、日常的にかくも多数の命と健康を奪い続けている事態は正に異常です。安全がクルマ通行の効率と並列で論じられてはなりません。生活空間としての道路は、全て歩行者優先が徹底されるべきです。「死傷ゼロ」に必要なのは、クルマの抜本的な速度抑制と制御です。私たちは、国連が採択した「道路の安全・行動の10年 2011-2020」に連帯し、被害ゼロへの行動を進めます。悲しみを知る者の希望が、全国と世界につながることを祈念して。

Nov.13.2011 北海道フォーラム アピール

世界道路交通犠牲者の日・・・「いのちのパネル展」

- 11月16日～25日 札幌市中央区民センター (協力：中央区安全協会)
- 11月14日～28日 檜山支庁 (協力：檜山振興局)

パネル展の感想より

- ◆「自分も子を持つ親として、車社会がとても不安だらけです。誰でも免許が取れる今の状況はあまり良くないと思う。もう少し処罰を厳しく、また適性検査を強くして欲しい」(40代男性)
- ◆「パネル展をみて、被害者の方々が日々さまざまな思いを抱えて生きているのだと伝わってきました。今まで以上に自分の命を大切にします」(高校2年)
- ◆「いつか交通事故のない世界がくることを願っています」(高校2年)

いのちのパネル

北海道交通事故被害者の会の「いのちのパネル」実行委員会が主催。道共同募金会の助成を受け「もう誰にも悲しい思いをして欲しくない」という遺族と被害者のメッセージパネル23枚を各地で展示しています。



昨年のワールドティ(札幌地下街)